

広報

もり

中部の森林



春の風物詩として
五竜岳山頂直下に
武田菱が出現します

私の森語り「ひのきの創造的アップサイクル」
山本木工所 代表取締役 山本 和彦

写真：松川大橋から北アルプスを臨む（中信署管内）

特集

- ・令和7年度中部森林管理局の取組ポイント
- ・安心な暮らしと安全な環境を守る治山事業

シリーズ

- ・現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

2025/No.253

中部森林管理局

令和七年度の取組のポイント

四月十一日、令和七年度の中部森林管理局の取組について記者発表を行いましたので、重点取組のポイントを紹介いたします。

I 安心な暮らしと

安全な環境を守るために

○地域の安全、安心の確保と自然環境に配慮した治山対策を推進します。



応急復旧対策として強靱ワイヤーネットを設置(上高地、地上高は約5m)

◆災害への迅速な対応

・令和六年七月、長野県上高地の六百沢で発生した土石流発生箇所(ろくひくさわ)に、応急復旧対策として厳冬期にセンサー及び強靱ワイヤーネット(きょうじん)の設置を観光シーズン前に終了、今後本格的な復旧対策に着手予定です。
・令和六年の豪雨による土砂流出に対し、災害関連緊急治山事業により復旧対策に着手します(富山県黒部峡谷)。

◆災害予兆への対応

・山地災害発生時のみならず、災害の予兆が確認された場合には、状況に応じてヘリコプター調査を実施します。

◆通信環境の確保

・最新の衛星技術である「低軌道衛星通信」を活用することにより山間奥地での通信手段を確保し、リアルタイムでの監視体制を強化するとともに、気象予測とあわせた早期の警報発令にも役立てていきます。



災害予兆に応じたヘリコプター調査(中信署管内)

II 林業技術の向上に

向けた取組

○伐採から再造林、保育に至る収支のプラス転換に向け、国有林のフィールドを活用して、技術の普及、低コスト化・効率化の実証を推進します。

◆5年後の実用化を目指した

技術開発

・エリートツリー等のコンテナ苗に超緩効性肥料(肥料の効果が約七〇〇日以上継続)を用い、更なる成長促進効果の検証、下刈回数削減による省力化を推進します。

・電動一輪車を用いて人力運搬にかかる省力化、軽労化を検証します。



電動一輪車での運搬イメージ(コンテナ苗) コンテナ苗のほか、獣害用の防護柵資材等の運搬の省力化、軽労化も検証します

◆造林技術検討会の開催

・新旧の林業技術に対する知見を深めるため、現地検討会を開催し、その成果を林業事業者等と共有します。

令和六年度は、枝打ちの新しい機材を使った造林技術検討会を開催しました。枝打ちの必要性や技術の伝承について学びつつ、高性能化された新しい機材が、今の時代の木材生産にどのようにマッチしているかを現場で検討しました。今後も同様の取組が行えるか検討中です。



(右の写真は、樹木を挟むようにセットした枝打ち機が回転しながら上昇し、枝を自動判定してチェーンソーで切断を行う様子)

◆地域特性に応じた集材技術の向上と普及の取組

・急峻な地形が多い当局管内では作業道の開設が困難なために従来から行われてきた架線集材により木材の搬出を行う事例も多くあります。山への負荷が小さい搬出方法として見直されることもあり、素材生産事業者の協力のもと、架線集材を行う技能者の育成や作業の効率化、技術の継承を目的とした現地検討会を開催しています。令和七年度は長野県木曾地域の生産請負事業地での開催を予定しています。



架線集材現地検討会(南木曾支署) 木曾地域の生産請負事業地で開催

III 多様で健全な森林づくり

○広葉樹の森づくりや花粉対策など多様で健全な森づくりを推進します。

◆広葉樹の森づくりの具体化

・有識者による提言を踏まえた森づくりの候補地を令和六年度森林計画において選定しました。広葉樹二次林の伐採や更新の方法に関する現地検討会を開催します。



森林計画で選定された広葉樹の森づくり候補地 (北信署 黒姫山国有林)

◆スギ花粉発生源対策を加速

・政府が策定した花粉発生源対策において、令和十五年度までの十年間でスギ人工林を約二割削減するとされたことを踏まえ、伐採と植替えを加速化します。

・管内の国有林においてスギが多く分布する長野県北信地方、岐阜県飛騨地方を中心に、スギ人工林の主伐(伐採)、再造林(植替え)の予定箇所を増加します。

IV その他の取組

◆伝統技術の継承

・「木の文化」を支える側面から、木曾地方の国有林において、伝統的な伐採手法である「三ツ紐伐り」の技術継承に協力します。「三ツ紐伐り」は、二方向から斧を入れて伐採する方法で、木材の割れや裂けを防ぎ、安全に正しい方向へ伐倒できることから、大径材を伐倒する際に用いられてきました。



「三ツ紐伐り」の練習風景(木曾署 王滝国有林) 三方向から斧を入れて伐採するには技術を要する

◆新たな獣害対策の取組

・深刻化するシカの被害に対する獣害防護柵について、沢部の柵と周囲の柵を切り離し、一部を壊れ易くすることで周囲の柵を倒壊に巻き込まない「受け流す柵」を新たに考案しました（愛知事務所）。既設の柵も簡易に改修可能なことから普及を推進します。



台風による被害の様子「受け流す柵」のみが損壊し、周辺の柵への被害は見られない(愛知所管内)

※「受け流す柵」は、令和六年十一月に開催された国有林野事業業務研究発表会の森林技術部門で「林野庁長官賞（最優秀賞）」、「職員が選ぶ業務研究大賞」を受賞しました。

◆令和7年度のトピックス

◆山仕事カスタムカー製作！

・「林道を走破できる地上高の高い車体」、「汚れた道具類も格納できる広い荷室」といった現場の声にこたえるため、保有する軽車両を改装し、「快適・きれい・使いやすい」をコンセプトに、機能的で工夫を凝らしたカスタムカーを製作しました。今後、現場での利用を通じ、より機能的な車両となるよう改良点を探っていきます。



(写真上)

- ・標準車比 **35mm アップ**の最低地上高 (たかが 35mm、されど 35mm なのです)
- ・砂利道の跳石から車両下部を守るためのアンダーカバーを装着

(写真右)

- ・開閉式のテーブルは、撮影した映像を現地で確認するためモニターとパソコンを置くなど用途に応じ活用できる耐荷重仕様
- ・荷室には金属製フレームの棚を作設し、作業で汚れた長靴や鋤簾や下刈り鎌なども入るアルミ製引き出し道具箱も製作



◆もっと知ってもらいたい

我が職場

・各種行事で着用できるジャケツトと帽子を製作しました。職員によるイラストデザインは、当局の業務を表現したアイコンをちりばめました。イベント等で見かけた際には、気軽に声をかけてください。
【企画調整課】



※令和7年度中部森林管理局の取組の詳細は、当局のホームページまたは、コードを読み込んでください。

安心な暮らしと安全な環境を

守る治山事業

災害対応

中部森林管理局管内は、日本アルプスをはじめとした急峻な山岳地帯を有し、中央構造線と糸魚川・静岡構造線が管内で交差するとい

う地形的・地質的に極めて特異な地域となつています。また、御嶽山や浅間山、焼岳等の活火山も存在し、地震や火山活動による災害リスクが高い地域でもあります。加えて、近年の地球温暖化の影響により、台風や大雨の発生頻度が

増加、規模も拡大傾向にあり、毎年多くの山地災害が発生しています。こうした災害やリスクに対応するため、国有林内での事業のほか、民有林内での大規模な荒廃地の復旧や地すべり防止

対策などを国が直接実施（直轄治山事業）することにより、地域の安心・安全な暮らしと環境を守る取り組みを進めています。

中部局では、豪雨や地震等による大規模な山地災害が発生した場合、国有林の有無にかかわらず、被害状況を把握するため、県や市町村とも調整・連携のうえ、ヘリコプターによる被害状況調査を実施しています。おおよその被害規模や被災状況を確認し、関係機関へ情報提供を行うほか、森林土木技術者の派遣等により、被災地の早期復旧に向けた支援を行うこととしています。

令和六年元日に発生した能登半島地震では、富山県の国有林及び民有林の林地被害等の現状を早期に把握するため、県と合同で上空から調査を実施し、新たな崩壊地等の発生がないか確認を行うとともに、調査結果を当局のHPへ掲載しました。この地震では石川県能登地方において多数の山地災害が発生し、人命、人家、公共施設等に甚大な被害を与えました。二次災害の防止と早期復旧が求められ、石川県から林野

庁本庁を通じ、集落や公共施設裏の森林や治山施設の点検、山地災害発生箇所での現地調査等を行うための技術的な支援要請がありました。これを受け、民有林の山地災害対策業務を支援するため「能登半島地震山地災害緊急支援チーム」へ当局の職員を派遣しました。今後も地域の安心・安全の確保に向け迅速な情報提供を行います。



中部局管内で交差する中央構造線と糸魚川・静岡構造線

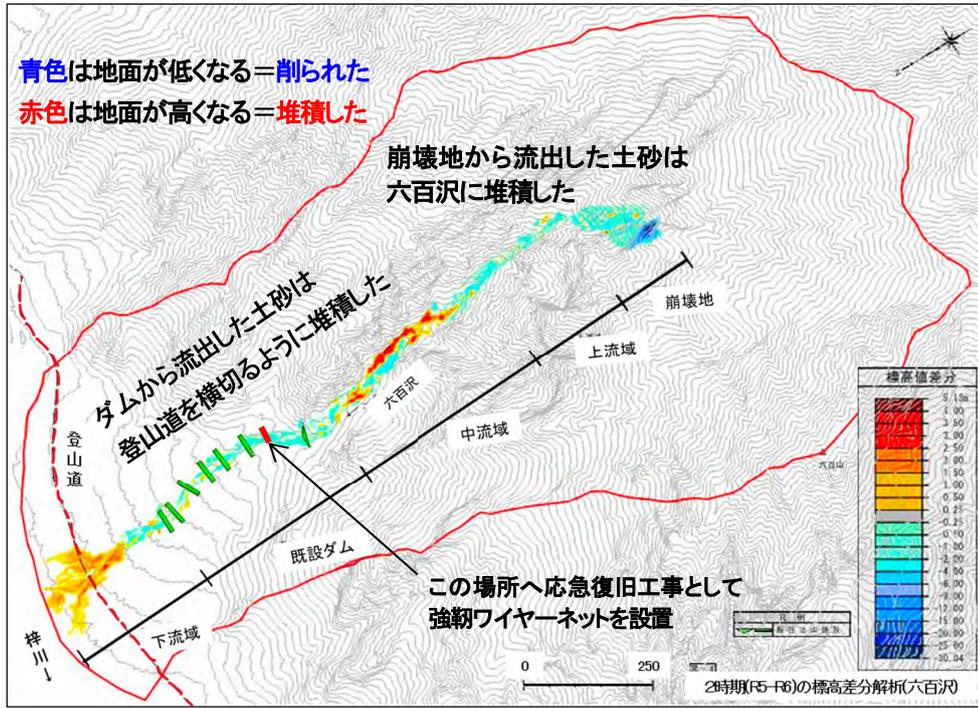
ヘリコプター機内での撮影の様子



県と合同で実施したヘリコプターによる上空からの現地把握（富山空港）

新技術の活用

中部局では、広範囲かつ高密度・高精度な地形データの取得が可能
な航空レーザ計測による地形デー



航空レーザ計測で取得したデータによる差分解析(令和6年 上高地 六百沢土石流災害箇所)

タの整備を行っています。

現在、管内ほぼ全域のデータを整備しており、取得データから、地形の凹凸が直感的にわかる陰影図を作成し、林内の治山施設の確認や新たな施設を計画する際にも活用

しています。

災害が発生した際には、発生前後の地形データを利用してその標高差を比較(差分解析)することにより土砂の移動状況や堆積の状況を把握し、関係者と情報共有を図りながら迅速な災害復旧に活用しています(二ページの記事もご参照ください)。

治山工事では、ドローン等の撮影

画像から作成した3次元測量データを
を使い、自動車の自動運転に近い
機能を建設機械に搭載するなど、I
CT(情報通信技術)の活用が進ん
でいます。

また、近年は、衛星インターネット

トアクセスサービスの活用により、
通信が困難であった山間僻地でも
データ通信が可能となりました。ウ
ェブカメラ等により遠隔で現場の
状況を確認することで施工管理の
効率化が進むとともに、リアルタイ

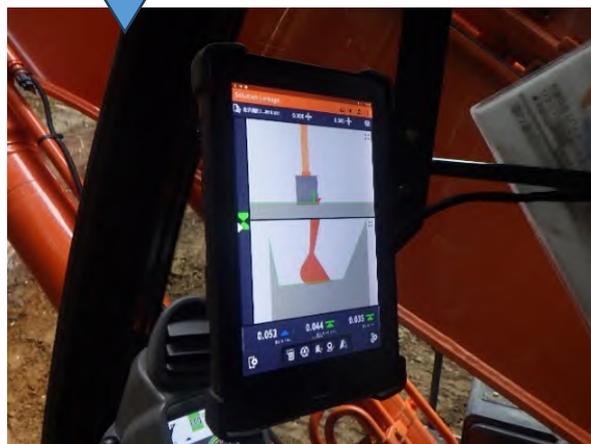


(写真上)

三次元測量データ等を搭載した建設機械が施工する様子。通常の工事と変わらないように見える。

(写真右)

建設機械のキャビン内の様子。あらかじめ取り込んだ三次元測量データに基づいて施工する様子が、搭載したタブレットに映し出されている。



ムで高精度の気象予測を把握して
施工の安全確保が促進されるなど、
新技術の活用による働き方改革が
進んでいます。

関係機関と連携した 「流域治水」等の取組

中部局では、気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化等を踏まえ、あらゆる関係者(国、流域自治体、企業、住民等)が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」の取組を行っています。

全国の一級水系等では、河川整備に加え、重点的に実施する治水対策の全体像をまとめた「流域治水プロジェクト」が策定されています。林野庁が実施する「森林整備・治山対策」をこのプロジェクトに位置付け、それぞれの水系の国有林等において、土砂・流木の流出を抑制するための治山ダムの設置や森林整備を行っています。

また、国交省が行う砂防事業と連携した取組も実施しています。過去に流木災害が発生し、下流域に甚大な被害が発生した神通川水系(富山、岐阜両県にまたがる神通川流域)では、国交省神通川水系砂防事務所との連携を進めています。流域全体

の流木被害の防止・軽減を図るため、神通川流域の上流域に位置する高原川流域(岐阜県高山市ほか)における流木対策計画を相互で情報共有、意見交換を行うとともに、事業箇所合同現地踏査を実施しました。今後も、関係機関と連携して、事前防災対策の一層の加速化を進める考えです。



(写真上)↑
富山県 片貝国有林に設置した独立基礎型流木捕捉工による捕捉状況(※堆積した流木は除去し、捕捉工の機能は回復済み、右上は捕捉前)
(写真右)→
国土交通省との合同現地踏査(岐阜県高山市 白谷砂防堰堤群)

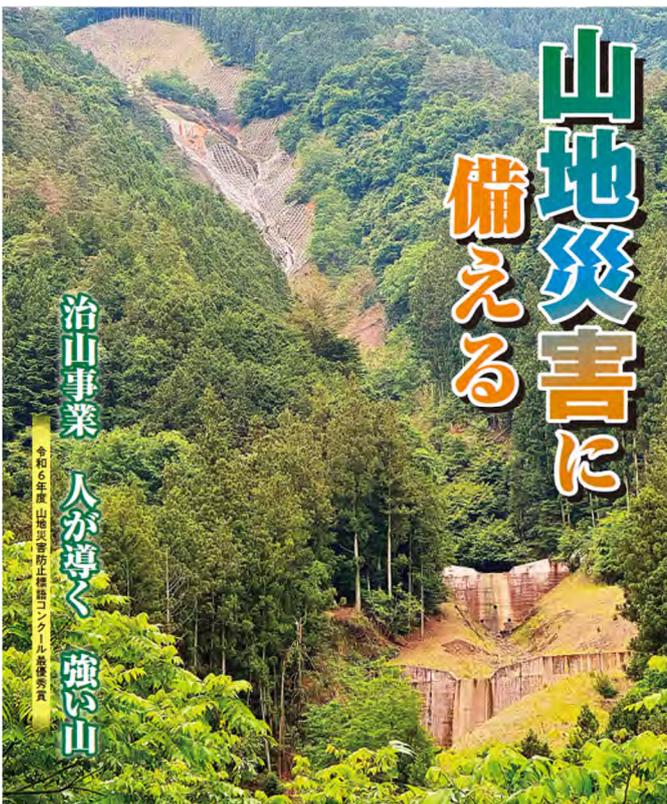


本格的な梅雨期を前に

日本では毎年約一、四〇〇箇所山地災害が発生しており、管内の四県では、富山九、長野一〇三、岐阜二四、愛知二九の合計一六五箇所(直近五カ年の平均)と全体の一割以上を占めています。発生時期は、梅雨時から台風時期にあたる六月から九月に集中しており、特に七月の一ヶ月間だけで五割近くになります。

普段から自分の身近に危険な箇所がどこにあるのかを知ることが、災害に備えるために大切です。また、山地災害が起きる多くの場合では事前「山の斜面から石が落ちてきた」「川がにごった」「水位が下がった」といった、危険信号と思われる変化がキャッチできます。危険信号をキャッチしたらすぐに避難し、災害の恐れがある場所には近づかないようにして安全を確保しましょう。

【治山課】



治山事業 人が導く 強い山

令和7年度 山地災害防止キャンペーン
5月20日(火)から6月30日(月)

シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の
仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

【岐阜森林管理署

岐阜西部治山事業所】

治山技術官 加藤 里実

岐阜西部治山事業所は、岐阜市のシンボルである金華山のふもとに所在しています。所管する区域は、長良川上流と揖斐川流域の国有林内で、北は郡上市白鳥町、西は福井県境の揖斐川町にまで及びます。

治山業務としては、主に工事監督における現地の立会いや予算管理のほか、今後工事を計画する箇所の調査や設計などがあります。

揖斐川流域上流の川上国有林では、度重なる豪雨により、福井との県境にある観光地の夜叉ヶ池へ向かう道路で土砂の流出が発生しました。地元の要望を踏まえ、安心して通行できる環境を整備するため、現在治山工事を進めているところ です。



揖斐川流域、川上国有林内の谷止工

工事の実行箇所は山奥が多いですが、岐阜市の金華山国有林や美濃市にある古城山国有林などの都市近郊林でも行われています。古城山では、集中豪雨の際に林地が浸食され、さらに、浸食によ



金華山国有林の全景(ヘリからの撮影)

って発生した土砂の一部が下流域の住民の住宅まで流出する事態が発生したことから、住民の安全確保のため、治山工事を実施しています。

金華山は年間を通して観光客が多く民家も近接しているため、工事の実施にあたっては地元住民への説明や、金華山が指定されている文化財保護法、景観法、風致条例等の多くの法令制限に関する手続きが必要となります。工事の実行前にこのような調整を確実に実

施することも重要な業務の一部になります。

■未来の担い手へのメッセージ

近年は局地的な集中豪雨が頻発する傾向が強まっており、地域によつては今までにない激甚な災害が発生しやすい状況になっています。

山地災害の未然防止と災害発生時の早期復旧に対応する治山事業が担う役割は非常に重要でやりがいのある仕事だと思います。一緒に取り組んでみませんか。



床掘検査(基準の高さまで掘削されているか確認)中の筆者

シリーズ

私の森語り

もりかた
森林・林業との関わりの中で、様々な課題に
挑戦されている方の取組を紹介します。



「ひのきの創造的アップサイクル」



有限会社山本木工所
代表取締役
山本 和彦

■自己紹介

電力会社へ就職するも一年余りで辞め、家具製作の父の後を継ぐため名古屋で修行、地元に戻り既に四〇年。注文家具としての依頼を、お客様のご要望に120%で応える、「NOと言わない」をモットーとして、前例のないものにチャレンジをしていく精神を大切にしています。

■活動内容

家具製作で出る端材を有効活用したい、今までに無い価値のものをつくりたい。アップサイクル作品として何かオリジナルのものを、と想っておりました。家具に捉われず木を素材として新しいものができないか、木の弱点である耐水を克服すれば新しいものが創造できるのではないか。

そこでもまず、デザイン会社と共同でキャンペーンギアであるメスティンに入る「ひのきくり抜き皿」をつくり、協力会社と共に液体ガラス含浸にて耐水作品の試作を始めました。うまくいけば、木の皿だけど水が滲みない、汚れに対して洗える作品になる、との考えでしたが、失敗に次ぐ失敗。割れや耐水などの克服に三年を要して完成を見ました。木の温もりを持つこの一枚板くり抜き皿は、当初の目標であったクラウドファンディングで成功裡に終わることができました。



完成まで三年の年月を要した「ひのきくり抜き皿」メスティンにぴったりと納まる「シンデレラフィット」サイズ 軽くて使いやすい

次はひのきの「手洗いボウル」に挑戦と意気揚々です。「手洗いボウル」は丸と楕円での製作。端材を鋭角な三角に加工し、扇形から円を描



三角の端材から手洗いボウルを作る

きます。これにより多くの廃棄物予備軍が材料として使えます。

しかし、製作にはこれまで以上に難儀に難儀を重ね、果たしてもものなるのかと何度思ったのかわかりません。やがて納得のいくところまで出来上がり、完成後に応募したウッドデザイン賞にて優秀賞(林野庁長官賞)を受賞しました。自ら考えた作品が認められたことは本当に感慨深く有り難かったです。



ひのきの「手洗いボウル」
2024年ウッドデザイン賞にて優秀賞(林野庁長官賞)を受賞
2025年3月、ドイツでの見本市に出展、好評を得ました

くように組み上げるので、端材のサイズはボウルの半径分の長さがあるが活かすことがで

■メッセージ
いままで活用されていない場所に木を利用するとそれが斬新さを醸し出します。

木には木目があり、それは魅力を引き立てる唯一無二のもので、木の優しさや温もりを視覚・触覚で体現することが出来ます。

資源の大切さ、端材の有効利用と廃棄減による環境負荷の軽減、新たな価値の創造とアップサイクル。無駄のないものづくりへこれからも取り組んでいきたいです。

そして、チャレンジです。これまでどれだけの失敗をしてきたのかわかりませんが、諦めないことは本当に大切です。

あと一歩で成就するところまで来ているかもしれません。やり通すことは大切なことといつも前向きに歩んでおります。

日本の山に豊富にある資源、新しい価値を創造し、その活用範囲を広げていきたいです。

■連絡先

岐阜県多治見市小泉町5-136
有限会社 山本木工所
コードはこちら→



上高地周辺と北海道のみ分布する希少樹種

上高地ケシヨウヤナギ希少個体群保護林

設定目的

ケシヨウヤナギは昭和三年に我が国で最初に発見された、国内では上高地及び梓川^{あすさがわ}下流、北海道にのみ分布する樹種です。

ケシヨウヤナギの群落とともに、更新が可能な氾濫原となる砂礫地の保護を目的としています。

地況・林況

当保護林は、上高地を流れる梓川本流の明神橋から徳沢の間に位置しています。

群落が生育する砂礫地にはケシヨウヤナギの稚樹や大木が生育しており、ヤマハンノキを主体にヤマザクラ、シナノキ、ウラジロモミ、ハルニレ等が混交する天然林となっています。



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 48 回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「裏木曾」その十二（最終回）

陸揚げ

水を利用した運材「小谷狩」（第四十七回参照）は裏木曾では付知川を使って木曾川本流に合流するまで行われるのが元々であり、その後は木曾川に一本ずつバラで流される「大川狩」を経て岐阜県八百津町の「錦織網場」で集められ、イカダに組まれて木曾川下流を名古屋方面に流されます。

昭和十四年の「木曾飛騨御料地位位置図」を元に運材のルートを示した概念図



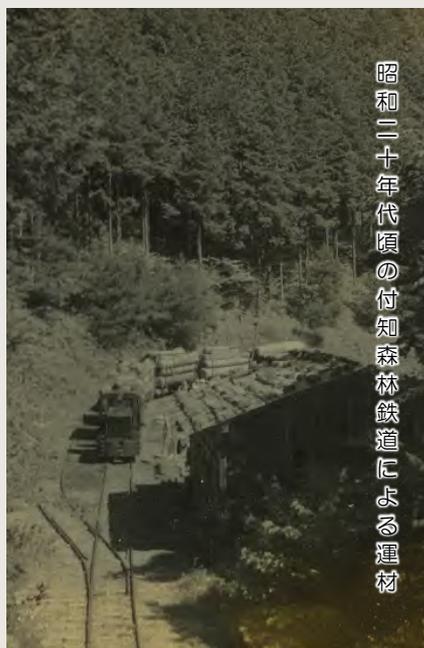
昭和十年代前半頃の付知川での木材陸揚げ風景

しかし、大正の頃には木曾川本流での電源開発が始まり、ダム建設と鉄道輸送の台頭で川を使った運材は衰退の時代を迎えます。裏木曾でも大正末期に中津町（現在の中津川市中心部）〜下付知間に北恵那鉄道が開通し、木材を鉄道で運ぶ時代が到来します。

裏木曾の木材は「小谷狩」で付知川を下付知まで運ばれ、川から陸揚げされて北恵那鉄道の貨車に積まれました。木材を陸揚げする土場と北恵那鉄道下付知駅を結ぶインクライン（斜面にレールを敷き、ケーブル

で巻き上げ昇降をさせる施設）もあったとされます。陸揚げは木材の運搬に川を利用した時代と鉄道を利用した時代の過渡期に登場した独特の風景となりました。

昭和十年代前半には付知森林鉄道が完成し、山から下付知までの木材輸送も鉄道へと切り替わり付知川を利用した運材は完全に終わります。これが昭和三十年代にもなると、木材の輸送は林道を利用してトラックで行われる時代となり、裏木曾の森林鉄道もまた消えていくこととなります。



昭和二十年代頃の付知森林鉄道による運材

一年間に渡るシリーズで「裏木曾」の林業風景を見て参りました。ご協力頂いた東濃森林管理署・中津川市の関係者の皆さんに感謝申し上げます。

「J」で紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、下記コードを読み込んでください。



フォトコンテスト 2025 開催中！ご応募お待ちしております

中部の森林 フォトコンテスト2025
～山と人の暮らしの再発見！～

Chubu

テーマ (1) 山の仕事にスポットライト

〈事例〉

- 働く林業労働者の姿
- 国土を守る森林土木事業
- 山仕事の合間のお弁当
- 林業を学ぶ学生たち
- 木を使った伝統工芸
- など

『休憩ちょっといっぶく』 『温原歩道整備に向かう歩荷』

テーマ (2) 人の心を惹きつける山の表情

〈事例〉

- 季節の風物詩（「雪形」、地域に縁が深い「桜」等）
- 日本美しの森～おすすめ 国有林～のユコマ
- 古木・老木・森の変な木
- 森の動物たち
- など

『春夏秋冬・笑顔の先に』 『五竜岳(武田麓)』

デジカメ・スマホ・ドローン
撮影方法はなんでもOK！

富山・長野・岐阜・愛知
県内で撮影された写真限定

令和5年以降に撮影した
未発表の写真限定

応募は1人3点(組)まで
組写真(5枚まで)
も応募可能

応募はこちらから

応募締切
令和7年12月12日

撮影は安全第一で

主催：中部森林管理局 共催：長野国有林森林整備協会、名古屋造林業材生産事業協会、(一社)長野林業土木協会、(一社)名古屋林業土木協会、国有林観光施設協議会、(一財)日本森林林業振興会長野支部、(一財)日本森林林業振興会名古屋支部

コンテストの詳細はこちら



上高地の六百沢 応急復旧治山工事現場にて
みどりの大使へ説明する若手職員

「二日中信森林管理署長」として
みどりの大使が来訪

四月二十六～二十七日「みどりの大使」の佐塚こころ氏が中信署の現場を視察しました。二十六日は、長野県松川村や安曇野市内の国有林で森林整備、治山事業の重要性について理解を深めました。二十七日は「二日中信署長」として上高地開山祭へ出席し、中信署の果たす役割や事業についてPRを行ったほか、令和六年に発生した六百沢の土石流災害箇所で開催された応急復旧工事の現場などを見学しました。

各地からの便り

各地からの便りの詳細については、ホームページをご覧ください。

広報「中部の森林」253号
発行：林野庁中部森林管理局
編集：総務企画部 総務課 広報

〒380-5875 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu>



メールマガジンへ登録いただくと、広報「中部の森林」の発行日にデジタル版を配信します。

(奇数月の発行を予定)

メールマガジンの登録サイト

<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry> において

配信を希望メールマガジンの中から

中部森林管理局広報「中部の森林」を選択して下さい。